



特定秘密保護法廃止へ! 全国で一斉行動!!

悪法廃止へ! 名古屋で三千人が集会 夜の街を 力強くデモ行進

通常国会の召集に合わせ、特定秘密保護法に反対する行動が全国で呼びかけられました。1月24日、名古屋でも久屋広場で、「秘密保全法に反対する愛知の会」主催で集会とデモ行進がもたれ、約3千人の市民が集まりました。我が知教労からも7名の組合員が参加しました。

集会では、三重県の「反対する会」から三名の連帯する意見表明がなされたほか、本秀紀名古屋大学院教授など、主催者から特定秘密保護法を廃止してこうとする挨拶がありました。参加者は、その後、栄三越からパルク周辺をデモ行進し、道行く人に悪法の廃止を訴えました。音楽に乗って、楽しく行進できました。参加者の女性からは「法案がすでに通つて、意気消沈していたらどうしようかと心配しましたが、こんなに多くの人の元気な姿を見ることができて安心しました」との意見も聞かれました。



日本の右傾化を狙う

安倍政権

圧倒的多数の世論を省みず、与党が強行した特定秘密保護法について

では、国民の中に根強い反対意見が多くあります。安倍首相は、法案が通った翌日「昨日まで、騒がしかった官邸周辺がウソのように静かになった」と、いかにも国民が法案の通過に対し、あきらめ、さめたかのような感想を述べましたが、その後の世論調査による支持率低下に慌て、「私自身ももっともつと丁寧な時間をとって説明すべきだったと反省しています。今後とも国民の懸念を払拭すべく丁寧に説明していきたい」と、国民世論の反発に一定の対応を余儀なくされました。しかし、政権発足一周年には、近隣諸国の警告を無視するかたちで靖国参拝を強行するなど、その「右翼的」思想を隠そうともしていません。

教育分野でも 更なるたたかいを

また、教育の分野では、道徳の教科化や「自虐史観」からの脱却と、戦前回帰の方向性をより明確に打ち出しています。愛知の会では、今後も特定秘密保護法撤廃と民主主義の制限・憲法改悪に通ずる法案改悪の動きに反対し、行動を提起する予定です。



名古屋中学生 転落死問題を考える

昨年7月に名古屋市の中学生がマンションから転落して死亡しました。愛教労・名教労は、痛恨の思いでこの事実を受け止め、2度とこのようなことが起きないように呼びかけをしました。

今回はメモが残されていて、そこには、「死ぬ」という冷たい言葉が日常的に交わされていたということです。生徒たちの人間関係のありようが気になります。

また、この学校では時間外勤務で月に100時間を超える教職員が、5月に17人、6月に16人もいました(調査対象は32人)。つまり教職員の半数以上において過労死ラインを大きく超える勤務の実態が見られたのです。部活動顧問は土日も出勤しています。

この学校は、1年の時は、1学級30人の6学級でした。それが2年からは1学級減となり、1学級36人の5学級になりました。中学2年でも少人数学級が継続していたら、もう少し生徒の様子を細かく見ることができたのではないのでしょうか。心の余裕のない、日常から、この職場の人間関係がぎすぎすしたもものになっている事実もいくつか伝わっています。



こういった事態は、日本の多くの中学校でも起こりうる深刻な問題です。

「子どもが安心して通える学校づくり」「信頼関係を大切にしたい学校づくり」が日本の全ての小中学校で進められることを願っています。愛教労では、2月22日に金山の労働会館で、シンポジウムを開きます。一緒に考えていきましょう。

北から南から ~支部だより~

半田市では、昨年度に続いて、2学期終業式当日の午後、半田運動公園で小中学校駅伝大会が開催された。チームは小中混合チームで、各小学校区ごとに編成される。問題点として、

①大会の目的が、はっきりしない。今年度の教育委員会との話し合いで、「小中連携のため」、「各校に強制はしていない」と、述べてはいたが、各小学校区単位のチームとなれば、出場しないということはむずかしい。

②勤務時間が短縮され、行事等の精選がいわれる中、大会当日だけでなく、校内練習会、現地での試走会、小中合同の練習会など、仕事一段と増える。各校の体育主任の大会当日に向けての諸準備もある。

③小規模学校区は、チーム編成の段階でかなりの不利な状況にある。これは練習や努力と関係ないところで生じている。

小中連携は大切な視点ではあるが、上記のような問題点を抱えてまで、このような駅伝を実施する必要はない。駅伝でなくても、地域の行事でも十分にその効果は考えられる。学校のしぼりのない半田市民マラソンのように、個々の出場者の自由参加で実施された方が子どもたちの自主的積極的な活動が予想される。(I)

みんなの目

我が地域は、道路にぐるりと囲まれた世帯で一つの班を作っている。先日、今年度初の資源ごみ回収当番がウチの班に回ってきた。班長となった私は、この地に居を構えて何と初めて班として参加した。今までは、仕事がある、朝は忙しいと参加しなかった。資源ごみも、他の回収方法で何とかしてきた。当日は、たくさん参加者に正直驚いた。班長とはいえ、顔を合わせることはあまりないので、名前と顔の一致に同じ班の中でも今ひとつ自信がない。参加者をノートに記入するために名前を聞いていった。いつも顔を合わせる人同士は、世間話が具体的だ。3件隣の方から「担任を持っていらっしやるの?」と聞かれた。どうして私の職業を知っている? 資源ごみ回収当番というたまに回ってくる班の集まり、立ち話、子供会、町内会、同級生、地元のアレやこれやの集まりは私以外のところで小さな社会を作っている。▼学生時代を地元で育っていない私は、成人式には誰一人知り合いないなかつた。就職して家と職場の往復が私の世界だった。自分が地域社会とつながりを持っていないことを改めて思い知らされた。もし大地震があつて避難所に行ったら、きつとアウエーな気分になるだろうなと思つた。▼部活で仕事でと忙しくしている生活は、自分の地域と疎遠になる。「世間知らず」の「先生」はこんなところからも生まれるのだろう。(S)

データで見る『教員の実態』第41回

97.9%、84.8%

私たちが毎日の業務をする上で、直接・間接に施設・設備を利用しています。今回は、その施設の耐震化率について、全国と比較してみます。

知多半島の小中学校の耐震化率は、校舎については100%になりました。まだ、体育館の耐震化が完成していない自治体が2つあります。見出しの数字は、愛知県と全国の昨年度の耐震化率です。

(業務ではありませんが)以前、職員作業でガラスに飛散防止フィルムを貼った経験をもつ方も多いと思います。現在は、校舎の耐震化に続いて、文科省の指導で窓ガラスの耐震化を進めている自治体が多いのではないのでしょうか。

窓ガラス以外にも、非構造材として照明やテレビ、スピーカー、天井、エアコン、扇風機、タイル壁、水タンク、本棚、ロッカー、時計など地震の時に落下や転倒して危険な物は数多くあります。衛生委員会を開いて多くの教職員からの指摘を聞いたり、専門家の診断を受けたりすることが重要です。ちょっとしたことは、現場で対応できますが、業者に頼むようなことは校内予算的に難しいときは、行政の出番です。

各学校によって、地形・校舎などの状況が異なるため難しいですが、災害から「子ども・教職員の命を守る」ために何が出来るか、私たちも行政も気をつけていきたいものです。

知ってるつもい・Q&A

お医者さんの労働組合は？

Q 年末に、かかりつけのお医者さんが「医師の勤務状況も学校の先生と同じで悲惨ですよ。お互いに気をつけましょうね。」と話してみえました。ふと、思ったのですが、医師にも労働組合はあるのですか。

A お医者さんは、勤務してみえる医療機関の組合に加入したり、単独の医師組合に加入したりします。医師の労働組合の代表的なものに、2009年に結成された、全国医師ユニオンがあります。その結成宣言には、
・私たちは、医学・医療の発展は人間を幸福にするものであると信じます。そして、自らの職業に誇りを持ち国民の命と健康のために働くものです。
・私たちは、政府の医療費抑制政策が、日本の医療を崩壊に導いたことに抗議します。そして、多くの国民に犠牲を強いてきたことに抗議します。
・私たちは、医師の過酷な労働環境が仲間である医師を過労死に追いやったこと、多くの医師の健康を奪ってきたこと、その家庭を破壊してきたことを告発するとともに、怒りをもって抗議します。

など、医師としての誇りと、医療制度の改善、よりよい労働環境をめざす意気込みがしっかり掲げられています。

この組合は、働く人間としての医師の権利を守るために、個々の病院でも働きやすい環境を求めて交渉をすすめるなど、活発な活動を展開しています。



sssssss 中学校「生徒指導だより」……エッセイ選集 sssssssssss

知多地区の中学校で発行された「生徒指導だより」からの抜粋です。生徒向けではなく、教師・保護者など大人向けに書かれています。生徒の「指導」について、大人はどう考えていくべきか……。教師と保護者がともに考えるきっかけとなり、相互不理解からの苦情・行き違いが減っていったそうです。

大蛇足

中学校の教員にとつて4月の年度当初は、会議の季節でもある。この一年間、学校でどのように生徒を指導していくのか、様々な面から話し合いを重ねていく。生徒指導はもちろん、給食や清掃についての保健指導、授業の受け方の学習指導、生徒会活動の特別活動指導……、学校生活のあらゆる場面で「指導基準」が確認される▼なぜ、それ程細かいところまで決めるのか。それは不公平を生まないためだ。五〇人近くいる教員が、個々の独断で正否を決めるわけにはいかない。年度初めにキチンと基準を決めることで、どの教師も同じ指導ができるように……というところになっている▼一定の基準を決めるのだが、実は本当に難しいのはそこからだ。実社会でもそうだが、人がある基準通りに行動しているかどうかを判断するときには、微妙な境界線がある。路上で一旦停止したかどうかの境界線、ゴミ出しの時刻を過ぎたかどうかの境界線……▼基準である以上、それは守られなければならない。だが、個々の状況を酌量する余地もなければ、杓子定規のそりを免れない。

人間のやることには情が絡むものであり、それが、思春期の中学生であれば猶更だ。かくして、中学生は常に境界線ギリギリで行動し、教師は常に境界線ギリギリの判断を迫られることになる。▼少し経験を積んだ教員は、これを指導の「帯」で対処するという。「いいか、基準の線じゃない、基準の帯だ。少し幅をもつて子どもを見るんだ。でも、それを勝手に下げてはいかん。基準通りだ。」指導というものには、実に難しい。

大蛇足

ジョージ少年は、父親が大事にしていた桜の木を斧で切ってしまった。だが正直に「ボクがやりました」と告白。父親はその態度を認め「おまえの正直な答えは千本の桜の木より値打ちがある」とほめた。アメリカ合衆国初代大統領ワシントンの逸話である。どうやら後世の創作らしいと言われるが、たしかに話として少々出来過ぎだ▼世の教育論・道徳論をみると、こうした「指導のあり方」が大勢を占める。人が過ちを犯したときに、頭ごなしに叱つてはならない。何が悪かったのかを、教諭すべきだ。まして正直に認めたならばそのことをほめるべきだという。多くの教員はこうした「よい指導」を追求し、生徒指導で何がいけなかったかを「説諭」するようになる▼閑話休題。一九六一年、植木等とクレージーキャッツのヒット曲スー

ドラ節のメインフレーズは「わかっちゃいるけどやめられない」だった(らしいです)。たばこは身体に悪い、ダイエットもしなきゃいけない、たまった仕事を片付けなきゃいけない、それは全部「理解」できるが、現状を改善する「行動」にはつながらない。たいていの人間は、理性によって行動を変えないからだ。毎日遅刻する中学生も「わかっちゃいるけど遅れちゃう」のだ▼では人間の行動を変えるのは何か。それは人と人との関わりの中で、本当に何かを感じたときに生まれるものだと思う。人が他人の感情に出会って心が動いたとき、人は自分を変え始める。本気で子どもの行動を変えたいのなら、大人は本気で叱るべきだろう。その子のために、頭ごなしに叱る大人もいた方がいい。

大蛇足

一九八〇年代、フジテレビの番組に「欽ドン!良い子悪い子普通の子」というバラエティがあった。イモ欽トリオ演ずるヨシオ・ワルオ・フツオのコンビがバカウケで、「ハイスクールララバイ」は一六〇万枚のメガヒットとなった▼現代でもワルオはいる。すぐに掃除をサボる、遊んでいる、逃げる:「ホントにもう……」学校では常に怒られキャラだ。比較的男子に多いが、女子にも勿論いる▼教師は毎日そうした生徒を叱り、なんとか「役目を果たすちゃんとした人」になれるように指導する。中学生は3年間でものごと成長するので、多くのワルオは卒業する頃には、ずいぶん「ちゃんとした人」になっている(場合が多い)▼普段の掃除もそうだが炎天下の除草作業では猶更だ。担当区域の草取り。やっぱ走り回って遊んでいるワルオの××君はド叱られている。だが、日かげに固まって草を取っているふりをしている○○さんたちはスルーされているのだ▼教師はワルオのマークを外さない。彼らのサボり方は目立つのですぐ怒られる。しかし、目立たないポジションで「上手に」サボっているヨシオやフツオは怒られにくい。日なたはジゴクだけど日かげならちよつとラク。そして取るべき草は日なたにある。

「やつてるような演技つきサボり」を指摘すると、「なんで私・ボクを叱るんですか。先生に叱られるなんて初めてです」なんて顔をしてる。けっこう悪質だね▼日本国憲法は第14条で「法の下の平等」を謳っている。掃除や草取りをサボる特権は誰にも認められない。そもそもワルオ・ヨシオ・フツオというステレオタイプ自体が認められないのだ。差別しないというのはそういうことだ▼教師は、目立たないところで努力している生徒を認めてやりたいと思う。同時に、目立たないところでインチキしているヨシオ・フツオを見逃さず、ワルオと同様に叱つてやらなければならない。